

「水と光のまちづくり推進に関する基本方針」

(平成25年5月7日水と光のまちづくり推進会議決定事項)

10年間、行政・企業・市民等が連携し、水都大阪の再生に取り組み、大阪都心部の河川に遊歩道・船着場が整備され、それらの魅力空間を活用した個性的なクルーズ、河川法の規制緩和を活用した日本初の常設川床「北浜テラス」、船で水辺の飲食店を巡る「大阪水辺バル」など、**日本で最も先進的な水辺の利活用を行う都市となった。**

こうした取り組みをさらなる発展へとつなげ、**水と光の魅力で世界の都市間競争に打ち勝つ「水と光の首都大阪」の実現をめざす**ため以下の目標を掲げ、オール大阪で取り組む。

◆**世界各国から注目される「水と光のシンボル空間」を実現**

大阪城から中之島、大阪湾までをつなぐ「東西軸」と都心部の「水の回廊」を中心に、他都市に類を見ないリバークルーズや水辺の賑い、圧倒的な光景観の創出によって、世界各国から注目される「水と光のシンボル空間」に

◆**「水と光」の魅力で、誰もがいつでも楽しめるテーマパークに**

「水と光」の魅力を大阪のまち全体への魅力に広げ、国内外から観光客が訪れる、誰もがいつでも楽しめる水と光のテーマパークに

◆**水と光による新たなビジネスモデルや賑いの創出に向け、国内外のタレント（才能）が集い、活躍する舞台に**

国内外から企業やクリエイティブな人材が集い、水と光による新たなビジネスモデルや賑いが継続的に創出、民間投資を呼び込む仕組みづくり

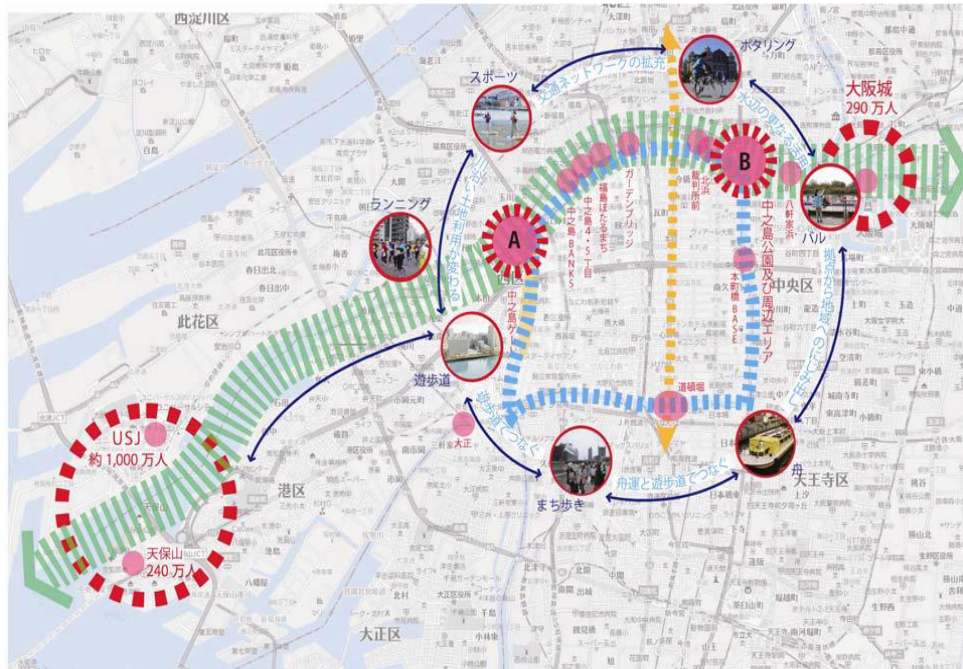
◆**新たな公民連携モデルの構築**

民の先駆的な取り組みを主導する「水都大阪パートナーズ」と、行政のワンストップ化を行う「水と光のまちづくり支援本部」は、都市経営の視点を持って連携を図りながら、共通の目標に向かって、都市魅力づくり・まちづくりを推進

[2013年～2016年の目標] ・水辺、公共空間への民間投資 ・世界からの集客・ブランド発信

2大広域集客エリアを結ぶ東西軸の強化

天保山・USJと大阪城を結ぶ東西軸と水の回廊がリンクする
舟運ネットワークの構築



水辺のまち拠点創造と回遊性の向上

ハイウェイオアシスのように立ち寄り、楽しみたくなる魅力と
賑わいのあるスポット、水辺のまち拠点づくり



中心となるエリア 中之島公園→インターナショナル・パークリゾート（国際交流をテーマにした、たくさんの人が集うエリア）
中之島ゲート→インナーベイ・マーケットリゾート（食のエンターテインメントと水辺の暮らしをテーマとするエリア）

その他の想定されるエリア

大阪城ハーバー、八軒家浜、道頓堀、北浜、裁判所前、中之島ガーデンブリッジ、ほたるまち、中之島4・5丁目、中之島バンクス、本町橋、大正、天保山、USJ